

令和6年度

# 学校教育活動の評価

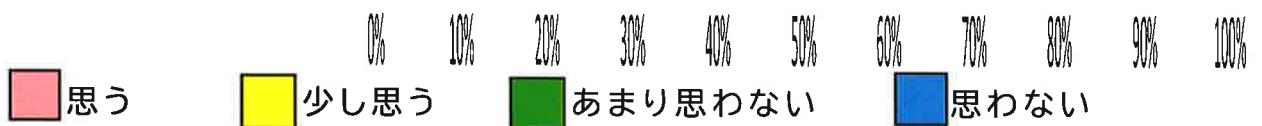
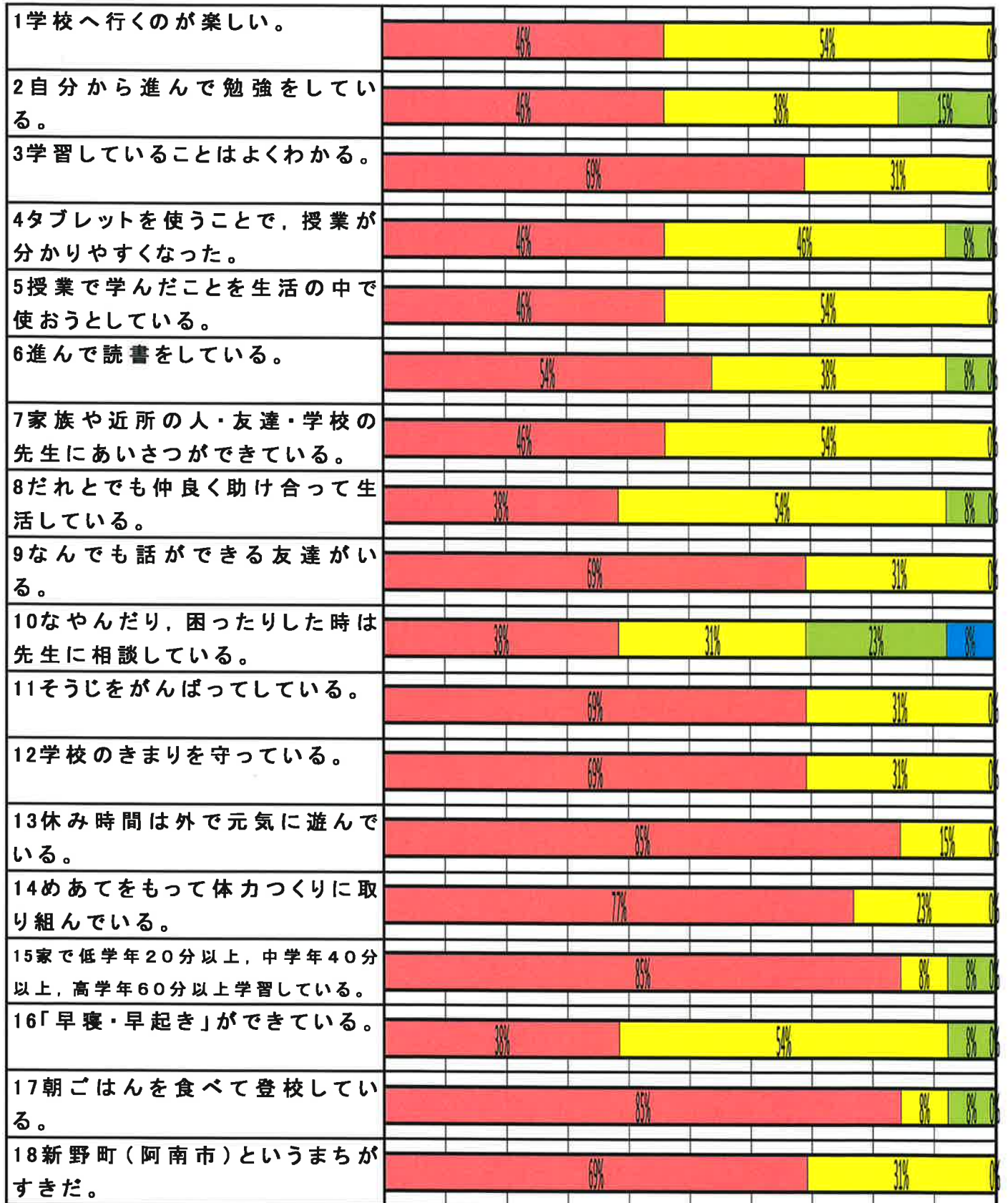


阿南市立新野東小学校



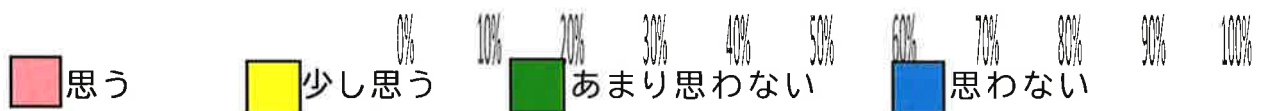
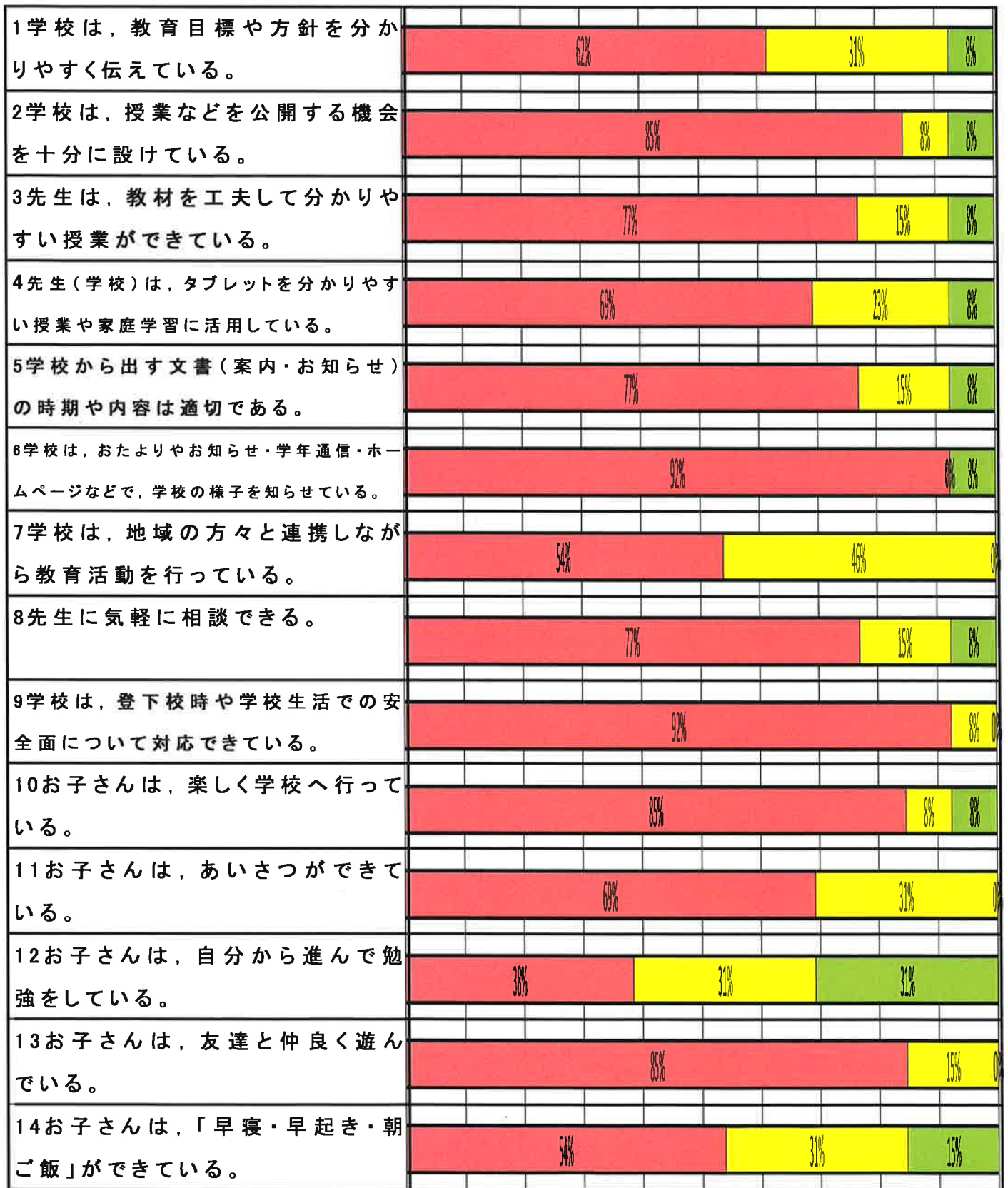
# 令和6年度 学校生活についての児童アンケート結果(グラフ)

新野東小学校 R7年1月実施



# 令和6年度 保護者アンケート結果(グラフ)

新野東小学校 R7年1月実施



# 令和6年度 学校評価の結果に関する考察

令和7年2月

## 1 成果と課題について

### 児童

#### ■成果

- ・「9なんでも話ができる友達がいる」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より25%増の100%となった。少人数のため友達の数に限られているが、良好な人間関係を築けている。いじめの実態調査でも本年度はいじめをうったえる児童はいなかった。
- ・「14めあてをもって体力づくりに取り組んでいる」の項目で、「思う」が昨年度より21%増の77%となった。体育主任を中心に体育の時間やかけ足などで自分の目標を設定させ、ポジティブな声かけを継続した成果であると思われる。
- ・「18新野町（阿南市）というまちがすきだ」の項目で、「思う・少し思う」が昨年度より13%増の100%となった。150周年記念集会を通して、母校や地域のよさを再認識することができたことも要因の一つであると考えられる。

#### ■課題と今後の取組

- ・「8だれとでも仲良く助け合って生活している」の項目で、「思う・少し思う」は92%であるが、「思う」は昨年度より37%減の38%となった。日常生活や道徳の時間に「友情・信頼」の指導を行っていききたい。
- ・「10なやんだり、困ったりした時は先生に相談している」の項目で、「思う・少し思う」と回答をしている児童は、昨年度より25%減の69%となり、約3割の児童が「あまり思わない・思わない」と回答している。児童が気軽に相談できるように普段の会話や日記指導に加え、担任以外の全教職員で相談しやすい雰囲気づくりに取り組む必要がある。
- ・「17朝ごはんを食べて登校している」の項目で、「思う」が昨年度より15%減となった。家庭と連携しながら引き続き基本的な生活習慣の指導を行っていききたい。

### 保護者

#### ■成果

- ・「4先生(学校)は、タブレットを分かりやすい授業や家庭学習に活用している」の項目は、「あまり思わない・思わない」が昨年度より11%減った。一人1台のタブレット導入から3年がたち児童・保護者ともにタブレットの使用法やルールにも慣れてきたと思われる。今後もタブレットの活用がさらに効果的な学習へとつながるように指導方法を研究していききたい。
- ・「7学校は、地域の方々と連携しながら教育活動を行っている」の項目は、「思う・少し思う」が昨年より6%向上し、100%であった。150周年記念集会に向けてのPTAのみなさんと協力して行った様々な取り組みや地域の方々のご協力が評価されたと思われる。
- ・「9学校は、登下校時や学校生活での安全面について対応できている」の項目で、「思う」が昨年度より11%増の92%となった。集団登下校や施設設備の整理・点検を継続して行い、さらに様々な想定にも対応した実践的な防災教育にも取り組んでいきたい。

#### ■課題と今後の取組

- ・「5学校から出す文書(案内・お知らせ)の時期や内容は適切である」の項目は、「思う・少し思う」が92%であり高い評価を受けているが、「思う」は昨年度より11%減の77%となった。メールなどを活用して文書の内容が確実に伝えられるようにしていきたい。
- ・「12お子さんは、自分から進んで勉強している」の項目は、「あまり思わない・思わない」が昨年度より6%改善されたが、「あまり思わない」が31%と低い評価が多い。特に家庭学習に対する評価であると思われるが、子どもたちが自主的に家庭学習に取り組めるよう、4月に配布する「家庭学習の手引き」の使用が継続できるよう、定期的に確認する必要がある。



・「14お子さんは、『早寝・早起き・朝ご飯』ができている」の項目は、「思う」が54%であり全体的には高い評価であるが、「あまり思わない・思わない」が昨年度より9%増の15%となった。児童には食育や睡眠の指導を適宜行い、睡眠や朝食の大切を伝えてきたが、保護者への啓発も充実させ家庭と学校が一体となった取り組みが必要であると考えられる。

## 2 来年度に向けての学校改善について

### ①学校運営について（家庭・地域との連携）

・来年度より学校再編に向けた検討が行われることが予想される。子どもたちのよりよい成長のために学校とPTAや学校運営協議会、地域住民や関係諸機関との連携を密にし、地域に開かれた学校づくりをめざす。そのために、地域教材や地域人材を活用した体験的学習を進めることで、地域の方々にも学校の教育活動に積極的に参加していただけるようにする。今年度は創立150周年記念事業で多くの卒業生や地域住民にご協力いただいた。これからも引き続き学校教育へのご協力をいただけるように地域への情報発信を充実させる。

### ②学力および学習意欲向上に向けて

・令和5・6年度の2カ年「外国語教育」指定研究事業を受け、全学年で「外国語教育」に取り組んだ。その成果として、子どもたちの「外国語」に対する興味や関心が高まり、学習意欲は向上している。研究指定は終了したが、少人数のためのコミュニケーション不足を解消するためにも、来年度以降も「外国語教育」の取り組みを継続していきたい。

・少人数のメリットを生かした「わかる授業」の展開こそ、学力保障と学習意欲の向上につながる。少人数学級では、児童一人一人の学習内容の理解度やつまづきを把握し、個別に対応していくことができる。そのような少人数のメリットを踏まえた「学力向上実行プラン」を作成し、きめ細かで工夫ある教科指導を展開する。（「学力向上実行プラン」は学校ホームページに公開している）

### ③学校の安全対策について

・学校前のバイパス道路は、歩道が整備されているものの、速度超過や追い越しをする車が多く、危険度は非常に高い。学校前の横断歩道での立哨指導や登校班の縦列歩行指導を継続して行うとともに学校、地域、家庭、諸機関が連携し、子どもたちの命を守る取組を推し進める。

・他地域での地震や豪雨などの自然災害から学び、南海トラフ地震や台風など身近な地域で予想される災害に備え、万一の場合にどのように行動するか危機意識をもてるように指導する。地震や火災、不審者侵入時における避難訓練においても、計画を見直し様々な時間帯や発生状況を想定して実施し、自ら命を守る行動がとれる児童を育成する。